

平成 2 1 年度

教育に関する事務の管理
及び執行状況の点検及び評価報告

苅田町教育委員会

(1) 教育委員会の事務の点検・評価制度について

平成20年4月から施行された『地方教育行政の組織および運営に関する法律』の一部改正により、教育委員会は、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行について点検及び評価を行い、報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することになりました。

荏田町教育委員会では、地域の教育課題や教育ニーズに応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これらに基づいて実施した政策について、その必要性、効率性等の観点から自ら点検・評価・公表することは、町民に対する説明責任を果たすことで、町民の信頼を高め、開かれた教育行政を推進していく上で非常に重要なことであると考えております。

そこで、平成21年度の教育委員会活動を、

- I 教育委員会の活動
- II 教育委員会が管理・執行する事務
- III 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

の3点から教育委員会自らがその進捗状況・達成状況等について、点検・評価を実施し、報告書を作成したものです。
なお、IIIについては、第3次荏田町総合計画後期基本計画に掲げた具体的な施策内容等と照らして、点検・評価を行いました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I「教育委員会の活動」

評価項目	内 容	点 検 ・ 評 価
	教育委員会会議の開催回数	・荏田町教育委員会会議規則に基づき、開催した。 平成21年 4月28日 第4回教育委員会 議案 就学援助、人事、団体登録 平成21年 5月 8日 臨時第1回教育委員会 議案 生徒指導に関する案件

<p>教育委員会の会議の運営に関すること</p>	<p>定例会 12回 臨時会 3回</p>	<p>平成21年 5月28日 第5回教育委員会 議案 6月補正予算 人事 平成21年 6月17日 臨時第2回教育委員会 議案 生徒指導に関する案件 平成21年 7月 2日 第6回教育委員会 議案 施設臨時休館 団体登録 平成21年 7月27日 第7回教育委員会 議案 教科書採択 平成21年 8月21日 第8回教育委員会 議案 9月補正予算 平成21年10月 5日 第9回教育委員会 議案 教育委員長選任 団体登録 平成21年10月29日 第10回教育委員会 連絡・報告事項 平成21年12月 2日 第11回教育委員会 議案 教育委員会評価報告 団体登録 平成21年12月25日 第12回教育委員会 連絡・報告事項 平成22年 2月 1日 第1回教育委員会 議案 平成22年度予算案 平成22年 2月19日 第2回教育委員会 連絡・報告事項 平成22年 3月 5日 臨時第1回教育委員会 議案 服務に関する案件 平成22年 3月25日 第3回教育委員会 議案 人事異動</p>	
	<p>情報提供</p>		<p>・教育委員会には、次長・課長・課長補佐・係長・指導主事が参加し、議案説明や事務報告を行っている。</p>
<p>教育委員会の会議の公開に関すること</p>	<p>教育委員会会議の傍聴者の状況</p>		<p>なし</p>
	<p>広報・公聴活動、会議録の公開の状況</p>		<p>・教育委員会開催告示をし、周知を図った。 ・会議録の開示請求はなかった。</p>
			<p>・県内で開催された教育委員を対象とした研修会に参加した。 県市町村教育委員会女性教育委員研修会</p>

教育委員の自己研鑽に関すること	研修会への参加状況	<p>教育委員等人権教育研修会 県教育委員長研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> 京築地区で開催された教育委員対象の研修会に参加した。 教育力向上福岡県民フォーラム
学校その他教育施設に対する支援等に関すること	学校訪問	<ul style="list-style-type: none"> 入学式・運動会・卒業証書授与式等学校行事に合わせて、個別に訪問した。 第7回教育委員会を新津中学校で開催した。
	所管施設の訪問	<ul style="list-style-type: none"> 所管施設で行われる諸行事等に、個別に訪問した。

Ⅱ「教育委員会が管理・執行する事務」

	評価項目	内 容
1	教育行政の運営に関する基本方針を定めること	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度苅田町小・中学校重点施策について、審議し策定を行った。 ・教育改革プログラムの進捗状況及び平成21年度取組内容について確認を行った。 ・平成22年2月26日、平成16年11月25日に出された「これからの町教育施策のあり方について」の答申内容に対する教育施策実施状況について、第2次苅田町立小・中学校教育問題審議会に対し、「専門的・多角的・総合的な評価を行い、平成23年度からその課題解決のための具体的な方向・方策」について諮問を行った。
2	教育委員会規則及び規定を制定し、又は改廃すること	<ul style="list-style-type: none"> ①平成22年2月1日 ・苅田町立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則
3	教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること	<ul style="list-style-type: none"> 6月補正予算 9月補正予算 12月補正予算 平成22年度当初予算 3月補正予算
4	教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度はなかった。
5	県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務に関する事案について、内申を行った。 ・平成22年度の教職員人事に際し、学校長の具申を受け、勤務年数、実績、適正配置等を勘案し、京築教育事務所に内申を行った。
6	教育委員会の所管に属する各種委員会の委員等の任命又は委嘱に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 1. 苅田町教育委員会 2. 京都地区1市2町結核対策委員会 3. 苅田町立学校給食運営委員会

		<ul style="list-style-type: none"> 4. 荻田町立学校給食委員会 5. 荻田町心身障害児就学指導委員会 6. 荻田町奨学生選考委員会 7. 荻田町社会教育委員 8. 荻田町立公民館運営審議会 9. 荻田町文化財保護審議会 10. 荻田町図書館協議会 11. 荻田町スポーツ振興審議会 12. 荻田町体育指導委員 13. 荻田町立小・中学校教育問題審議会 14. 荻田町教育委員会外部評価委員会
7	教科用図書の採択の決定に関すること	平成22年度使用中学校教科用図書採択
8	通学区域を設定し、又は変更すること	・新たな設定や変更はない。
9	文化財を指定し、又は指定を解除すること	・指定解除はない。
10	請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関すること	<p>○請願・陳情に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片島小学校複式学級解消に関する件 (片島小学校複式解消期成会) <p>○訴訟に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度はなかった。

Ⅲ「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」

「苧田らしさ」を実現するための人づくりや芸術・文化づくり、地域に根ざしたまちづくりを目指します。

そのために、教育環境の整備、充実を図るとともに、交流・体験学習など多面的な教育内容の充実を図り、子どもたちの個性を伸ばし「生きる力」を育みます。

学校・家庭・地域が一緒になって支えあう仕組みづくりを通して、学校を地域に開かれたものとし、地域コミュニティの場となるように、その活用を図ります。

また、生涯学習活動やスポーツ・文化活動の充実に努め、町民が地域や世代を超えて、集い、学び、語り合い、いきいきと活動ができるようにするとともに、その活動を支援する指導者等の育成を図り、町民や団体の主体的な活動を支援します。

本町の伝統文化を保存・継承しつつ、質の高い芸術文化に触れる機会の充実を図るとともに、文化財の保護・活用に努めることによって、郷土を誇りに思う、心豊かなまちづくりを進めます。

◇ 評価項目は、「苧田町後期基本計画2006－2010 第3次苧田町総合計画」の基本事業に示されているもので、項目欄の数字は、基本事業番号です。

有効性	効率性	達成度	総合評価
施策や運営方針、町後期基本計画の目標成果が得られているかを評価する	事業が効率的に実施できたかを評価する	計画通り達成しているかを評価する	3つの評価項目を勘案し、総合的に評価を行う。
評価判断基準	評価判断基準	評価判断基準	評価判断基準
A 得られている	A 実施できている	A 期待を上回る	A 達成できた
B おおむね得られている	B おおむね実施できている	B おおむね期待通り	B おおむね達成できた
C あまり得られていない	C 実施できていない	C 期待を下回る	C 達成できなかった

1 生きる力を育てる教育の充実

施策の方針	就学前教育を含め教育環境の整備・充実や交流・体験活動の機会を通して子どもたちがたくましく生きる力を育てるとともに、地域に開かれた学校づくりを進める。							
	基本事業	主な取組	内容・成果	評価				評価委員コメント
			有効性	効率性	達成度	総合評価		
3-1-1 学力の充実と豊かな人間性を育てる教育の充実	少人数学級・専科教員の導入により、子どもたちの確かな学力の向上・定着を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・苧田小1馬場小3南原小3与原小3計10名 ・中学校各5名ずつ計10名 ・片島小学校複式解消1名 合計21名配置 ・小学校音楽専科4体育専科3合計7名を配置 ・町外国語指導助手(ALT)4名配置 ◇ふくおか学力アップ推進事業により、苧田小・馬場小・南原小・与原小に県費による理科専科を1名ずつ配置 ・「中学生への学習案内」作成 ○配置計画どおり、実施できている。 ○全国学力・学習状況調査・福岡県学力実態調査の結果について分析システムをもとに改善を図っていった。 	A	B	B	B	町費負担教職員の配置数を増やしたこと、「中学生への学習案内」を作成したこと、など学習環境の改善のため昨年度に加えて充実した取り組みが伺われる。今後は、この施策が「学力向上」に対して如何なる実効性を有するかを検証していただきたい。	
	お互いの文化の違いを理解しあう国際理解教育の推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、アジア太平洋子ども会議イン福岡によりロシア・ミクロネシア両国の子どもたちのホームステイを予定していたが、新型インフルエンザ流行のため、中止 ○小学校では、総合的な学習の時間でホームステイ受入国の学習を行っている。 	B	C	C	C	国際理解教育への取り組みは継続的に実践されている。21年度は、ホームステイ受入の準備をしていたがやむを得ず中止となったのであり、「C」評価は厳しいと考える。	
	自然環境の保全をテーマとし、人や自然とふれあう体験的学習を通じた環境教育を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・苧田小・馬場小の5年生がガザミの放流や清掃活動を行った。 ・苧田小と馬場小の5年生が、苧田漁協と岸壁の壁画製作を行った。 ・馬場小・南原小の5年生が殿川メダカ飼育による環境学習を行った。 ・与原小、白川小で米作体験を実施 ・馬場小・与原小・片島小では校区のクリーン作戦を実施 ○各学校では実践を継続、発展させている。それぞれの取組を広げるため、紹介する方法について検討していかなければならない。 	A	B	B	B	各小学校における継続的な実践活動の展開が認められる。一方、中学校における実践の報告がないがこの点について示して欲しい。また、各実践活動の評価や発展のための情報公開等の方法の検討と実行を今後お願いしたい。	

<p>人を思いやり、ものを大切に する心を育てる福祉教育の推進を 図ります。</p>	<p>・全小中学校が福祉教育協力校となり、総合的 な学習の時間において車椅子体験や老人クラ ブ等との交流会を行った。 ○荇田町社会福祉協議会と連携しながら取組 を進めている。</p>	A	B	B	B	<p>昨年度の課題であった「総合的な学習の時 間」における実践から「日常的な教育活動」 への繋ぎと広がりをめざして、社会福祉協 議会との連携による取り組みが進められて いるのだろうか？</p>
<p>児童・生徒の社会参加を図るた め、体験学習や職業教育の整 備充実を図ります。</p>	<p>・馬場小、南原小、与原小、片島小でキッズ マーケットを実施。 ・馬場小学校4～6年生が小学生集団宿泊体 験事業で4泊5日の集団宿泊を行い、集団生 活や体験活動を経験 ・全小学校5年生で日産モノづくり体験学習を実施 ・両中学校で、2日間の職場体験を実施 ○キャリア教育の視点から、小・中学校が連携 した取組が行えるようにカリキュラム作成などの 支援の在り方について検討する必要がある。</p>	A	A	B	A	<p>義務教育段階における職業教育は重要で あると考える。小・中連携(あるいは一貫) 教育を、キャリア教育の視点から検討する ことは、荇田町における義務教育の特色あ る実践を作り上げる一つの方法と成りう る。</p>
<p>障害児に対する正しい理解と認 識を深めるなど、障害に配慮し たやさしい教育の推進を図りま す。</p>	<p>・社会福祉協議会と連携し、福祉教育や総合 的な学習の時間においてアイマスクや車椅子 体験を行った。</p>	B	A	B	B	<p>昨年度は多目的トイレや階段昇降機の設 置など、障害に配慮した教育環境づくりの 取り組みが報告されたが、21年には示され ていない。</p>
<p>人権を尊重する教育の推進を 図ります。</p>	<p>・大阪府寝屋川市教育委員会 武内和雄指導 主事による講演「大人の知らない携帯電話の 危険」参加者163名 ○講演内容がこどもの人権を考えるものであ ったため、アンケート結果は大変参考にな った・参考になったを合わせると100%であ った。 ・各学校では人権教育推進計画を作成し、「か がやき」や「あおぞら」を活用した人権学 習を行うとともに、職員研修も実施した。 ○「かがやき」「あおぞら」を位置づけた年 間指導計画が各学校と作成されている。</p>	A	A	B	A	<p>講演の内容が直接子どもの人権を考える ために具体的内容であったため、講演に 対する参加者の評価は良好であった。こ のような積み重ねが人権教育の広がり と深まりを支えることになると考える。</p>
<p>特色ある教育課程づくりとして 小・中一貫教育の検討を進め ます。</p>	<p>・2中学校の英語教師が、校区の小学校に行 って、6年生に英語の授業を行った。 (各小学校1回ずつ)</p>	B	B	B	B	<p>小・中一貫教育の検討は緒についたばかり ということだが、英語教育における小・中 連携から取り組みを始め、教務主任レベル で連携への検討が始められたことは評価</p>

		○英語教育の交流から小・中連携の取組のきっかけとすることができた。また、教務主任レベルでの会議をもつことができた。					し、今後期待したい。また一方で、照葉小中学校の実践に関する資料・データ収集等、情報収集の今後の展開にも期待したい
3-1-2 教員の資質向上の推進	演習・実習・体験型の町主催の研修プログラムを策定し、教職員の資質向上に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・入門ICT・学級活動・考古学ツアー・手品教室・理科実験・園芸花壇づくり・マナー講座の7講座に112名が参加(教職員は2年に1度参加対象) ○前年のアンケートと教職員のニーズをもとに講座を開設することにより、「参考になった」という評価が98%であった。 	A	A	A	A	昨年度に引き続き、着実に実施されている。教職員に対するアンケートを活用しながら、講座プログラムの改善も行われている。
3-1-3 開かれた学校づくりの推進	地域コミュニティの拠点として、学校を活用し、地域住民との交流を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の懇談会やPTA主催行事において積極的に学校施設を活用した。 ○地域住民との交流を推進するため、「学校だより」を地区回覧板と一緒に回覧する取組も行っている。 	B	B	B	B	「学校だより」の回覧によって学校の情報公開と交流推進のために取り組んでいることは評価に値する。地域住民が学校を「地域コミュニティの拠点」として認識し、まさに学校を様々な地域活動の「場」として活用できるよう、この基本事項の他の取り組みと併せていっそうの継続を期待する。
	外部講師として地域の人たちの活用を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間において老人クラブ等の地域の方々に講師を依頼。(昔の遊びの紹介、芋や野菜・米などの栽培活動の指導、等覚寺松会・苧田山笠や神楽の説明や指導) ・片島小学校で俳句の指導 ・各学校で人材活用名簿を作成し、情報交換を実施 ・卒業生用リボンの制作指導 ○教育改革実行委員会2班により、人材リストを毎年更新して活用に努めている。 	A	B	A	A	
	子どもたちをとりまく危険から守るために安全教育や不審者等への対策を充実させます。	<ul style="list-style-type: none"> ・全小学校において交通安全教室を年1回実施 ・防犯教室も実施 ・新1年生入学時に防犯ベルを配布。 ・非行防止コーディネーターによる登下校の安全対策。 ・全小中学校に防犯灯を設置(小15基/中4基) ○取組により、不審者情報は、H20年度30件からH21年度は16件に減少している。 	A	A	B	A	

	<p>子どもの安全・非行防止を目的として、町内の各団体と連携を図り、対策を強化します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区安全対策協議会(各小学校において名称は異なる)を年間2～3回実施し、学校からの説明及び区長・民生委員・老人クラブ等地域の方々とは意見交流を行った。 ・苧田町青少年育成会議と連携し、毎月夜間パトロールや街頭補導実施。また、朝の声かけ運動を全小・中学校の校門で10月に実施 ・青パト巡回による下校時の安全確保を実施。 ・「こども110番の家」ステッカーを作成 ○情報を共有するように青少年育成会議等と情報交換に努めている。 	A	A	B	A	
3-1-4 教育環境の整備充実	<p>老朽化してきた学校施設や設備の計画的改修を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校プールの改修を行った。プールサイド改修・・・苧田中学校 ・白川小学校北側校舎解体・駐車場整備 ・与原小学校体育館の屋根の防水工事を実施 ・馬場小学校防球ネット設置 ・苧田小、与原小、白川小遊具設置 ・各小・中学校 校内LAN工事 ・苧田町シルバー人材センターに小中学校の営繕業務について委託した。 ○校舎改築については、マスタープランの計画スケジュールどおりには進んでいない。 	B	B	C	B	<p>老朽化した施設・設備への対応は十分に認識されており、徐々に進められている。しかし、マスタープラン通りに進められていないことが昨年に引き続き指摘せざるを得ない。マスタープランのスケジュールの再検討が必要ではないか。</p>
	<p>障害の状態、発達段階に応じた指導・相談の充実など特別支援教育や交流活動の充実を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就学指導委員会を5回開催。 ○京築教育事務所や築城特別支援学校等と連携しながら、就学指導委員会の開催回数を増やし、相談支援体制を整えている。 	A	B	B	B	<p>就学指導委員会の開催回数を増やすなど指導・相談体制の充実を図っていることは認められるが、一方「交流活動の充実」に関わる取り組みが示されていない。</p>
	<p>子どもたち自身が、気軽に相談でき、自ら問題解決に取り組んでいけるような相談窓口の充実を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談を開設 ・指導主事を配置し、電話での対応を行う体制をとっている。 	A	B	B	B	<p>昨年度外部評価において指摘したことであるが、「子どもたち自身」を対象とした相談は、その方法等慎重な対応が求められる。今後、次の欄(カウンセラー等に関する事</p>

		○年度当初各学校において、相談窓口について保護者へお知らせするように依頼している。また、小学校においては入学説明会で説明するようにしている。					項)の取り組みと併せて、具体的な方法等検討する必要がある。
	保護者・専門的な資格を持つスクールカウンセラー等とともに、悩みを相談できる体制づくりに努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー活用状況 延べ相談件数 466件(H20 516件) 面接383件,電話8件,家庭訪問23件 小学校派遣31件,その他21件 ・スクールアドバイザー活用状況 H20年度 4つの小学校(26件) H21年度 5つの小学校(34件) ・スクールソーシャルワーカーを配置 ケース数 39件 ・不登校児童生徒数 小学校H19(21人)→H20(9人)→H21(14人) H21年度不登校児童のうち復帰者6名 中学校H19(57人)→H20(52人)→H21(50人) H21年度不登校生徒のうち復帰者3名 <p>○不登校児童生徒は依然多いが、SCやSSWと学校が連携することによって、復帰者が増加している。今後も、解消に向けて指導・支援を行っていく。</p>	A	B	B	B	スクールカウンセラー、スクールアドバイザー、スクールソーシャルワーカーの活用や配置は昨年度に引き続き着実に実施されている。しかし、小学校の不登校がH20年に減少したがH21年には増加している。また、中学校では、減少傾向が見えつつもまだ「上げ止まり」の状況から脱していない。不登校の原因を再度検討し、個別対応を行いながらも、社会的・制度的対応を検討することを期待する。
3-1-5 地域・家庭教育の充実	就学前時期から、地域住民・保護者を対象として学習機会の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・10月全小学校において、就学時健康診断を実施。また、その際には子育てや就学についての相談を受け付けた。 ・2月全小学校において入学に関する事前説明会を実施した。 	A	B	B	B	前年度に指摘した事項、「障害をもった、あるいは躰が困難な子どもに対する子育て相談への対応」や「健康診断に参加しない保護者への対応」についての取り組みが示されていない。
3-1-6 食育の推進	健康な食生活の重要性を子どもたちが身につけるために、栄養・地産地消・衛生管理を踏まえた教育の充実を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度から南原小学校に栄養教諭を配置。 ・栄養教諭や栄養士が各小学校を訪問し、2・3年生で望ましい食習慣の育成や地産地消について指導を行った。 <p>○野菜栽培や総合的な学習の時間と関連させながら、指導を行っている。</p>	A	A	B	A	

	安全・安心な給食への取組を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・6月～7月にかけて、教育委員会指導係、給食センター職員、栄養士が各学校に行き、環境衛生指導を行った。 ・町内の米、野菜を購入した。 	A	A	B	A	
6-1-2 安心して産み・育てることができる環境づくりの充実	経済的な負担の軽減を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的事情により就学が困難な児童生徒の世帯へ学用品費や給食費の一部又は全部を援助する就学援助についてチラシを児童生徒に配布し制度の活用を呼びかけたり、年度中途にも広報誌に掲載したりしている。また、入学式やPTA総会などで周知を図っている。 <p>平成19年度353名(小226中127) 平成20年度367名(小228中139) 平成21年度413名(小261中152)</p>	A	B	B	B	就学援助の対象となる児童生徒の比率はこの3年間増加している。この状況下で、チラシや広報誌等を通じて周知を図っている。

2 生涯学習社会の実現

基本事業	主な取組	内容・成果	評価				評価委員コメント
			有効性	効率性	達成度	総合評	
3-2-1 参加・体験・ 交流の活性化	子どもを対象とした、海と山を活用したキャンプなどの自然体験の充実を図ります。	夏季休暇期間中に小学生高学年を対象としたサマーキャンプ(6泊7日)を夜須高原、竜岩自然の家で実施し、昨年を上回る33人の参加者で、体験を通じて、自然に親しみ、規律を守り、課題を克服して行く力を育む機会を提供した。	A	A	A	A	
	誰もが遊び学べる施設として「等覚寺地区生涯学習施設」の整備を進めます。	空の家の屋根、屋内修繕工事を実施し、昨年度購入した隣接地の家屋を解体し、キャンプ等が実施できるよう整備した。また、空の家、分校跡地等の用地境界杭の設置を行った。	A	A	B	A	昨年度に引き続き着実に計画を実行に移している。
3-2-2 住民主体への 学習環境づく りと人材育成 の推進	自主活動グループが、主体的に活動するために、支援を進めます。	公民館、体育館講座の受講が終了し、自主サークルとして活動を継続する団体については、1年間、サークル時の公民館等の使用料を半額減免している。 (公民館6サークル)	B	B	B	B	昨年と比べ公民館サークル数が半減している。公民館使用料の無料化を含め、自主活動グループの主体的活動を支援し盛んにするための環境づくりのため、支援内容や方法の再検討を期待する。
	「まちづくり」や「ひとづくり」に重点をおいた公民館講座を通して、リーダー、アドバイザーとなる人材づくりに努めます。	平成17年10月から人材育成の一環として、苧田まちづくりカレッジ講座を開催。現在、在校生34名また卒業生50名程度の方が、それぞれの分野でまちづくり活動を行った。卒業生で苧田まちづくりカレッジOB会を設立し、町のイベント等に参画した。	A	A	A	A	講座の卒業生たちによるOB会の設立と町イベントへの積極的参画等、まちづくりやひとづくりに重点をおいた公民館講座のねらいが着実に実り始めている。
	施設管理において、町民が利用しやすい組織体制づくりを進めます。	施設の指定管理者制度への移行については、既に検討済みであり、当該年度での検討は行っていない。 今後は、町民プールの指定管理者制度の組織体制づくりを検討する。	C	C	C	C	
	老朽化が進む施設を、バリアフリー化を踏まえて計画的に整備を進めます。	バリアフリー化は、昨年度までの福祉のまちづくり支援事業において、概ねバリアフリー化は実施した。施設整備は、体育館屋上防水工事等を施工した。	B	B	B	B	

3-2-3 人権学習の推進	啓発冊子「しおさい」等の活用を図り、人権学習の質的向上と内容の充実を図ります。	公民館講座において、各館7月と12月に人権教育講座を開催し、延べ433人が参加した。	A	A	A	A	人権教育講座への参加者が昨年度に対して倍増している。いっそうの啓発活動の展開を期待する。
3-2-4 図書サービスの充実	図書館サービスの環境整備（人的・物的・運営的）の充実を図ります。	平成21年8月に小波瀬コミュニティセンターの図書室を40㎡増築し、蔵書数が約6千冊増加した。 老朽化していた移動図書館車を買換え、今まで訪問できなかった施設に配車することにより、サービスの充実を図った。	A	A	B	A	
	インターネットによる、公立図書館と小・中学校、高等教育機関、大学等の情報ネットワーク化を検討します。	公立図書館と学校等とのネットワークは既に検討済みであり、平成21年度では検討していない。図書館と学校では、貸出し図書の方々に相違があり、移動図書館等でサービスの充実、連携を図りたい。	C	C	C	C	昨年度同様、他部署との連携あるいは役割分担を再検討する必要性を指摘せざるを得ない。

3 スポーツ・文化の振興

基本事業	主な取組	内容・成果	評価				評価委員コメント
			有効性	効率性	達成度	総合評	
3-3-1 スポーツ・レクリエーションの推進	勤労者、高齢者の健康づくりの一環として各種スポーツ・イベントの充実に努めます。	アジャタ大会・スポーツレクリエーション祭・ふれあいマラソン大会を実施した。また、幅広くスポーツに親しめるよう、苅田町体育協会等と連携し、各種スポーツ大会を開催した。 平成21年度は、県主催イベントとして、県民体育大会（バドミントン競技、107チーム・747人参加）、福岡県体育指導委員研修大会（体指836人参加）が町内で開催された。	B	B	B	B	昨年度指摘した課題、「いっそう多くの町民が参加できるような、種目等の工夫」については、未だ課題として残るが、県民大会への積極的参加や、体育指導委員研修の町内開催など、着実に取り組みがなされている。
	地域スポーツクラブの設立に努めスポーツリーダー、指導者の育成を推進します。	今古賀ふれあいスポーツクラブが、地域スポーツクラブとして設立した。 町としては、設立準備等に側面から支援を行った。	A	B	B	B	昨年度の課題であった今古賀地域における地域スポーツクラブの設立が実現した。今後は、その理念通り「どこでも、誰でも、いつでも参加できる」地域スポーツ事業として町行政の積極的関与が期待される。
3-3-2 スポーツ施設の整備・充実	学校施設開放事業により、地域におけるスポーツ団体の育成を促進します。	町内小中学校の校庭と体育館の開放を行い、昨年度を8団体上回る54団体（小学校43団体、中学校11団体）が利用した。	B	A	A	A	

	町民プールが老朽化していることから、整備を進めます。	前年度に引き続き、実施設計等を実施した。	B	B	B	B	
	総合運動公園の整備を検討します。	大型の事業で、予算の問題もあり、検討していない。	C	C	C	C	引き続き基本事業として掲げることが妥当か、検討を要する。
3-3-3 芸術・文化の 振興	町民が多様な芸術文化に触れられる機会の充実に努めます。	一般町民の参加を広く呼びかけ、第31回を迎える町民文化祭を実施した。また、四季の音楽会実行委員会をたちあげコンサートを通じ、町民の芸術文化意識を高めることを目的とし、レインボーコンサート、吉田次郎コンサート、等覚寺森のコンサート、南こうせつコンサートなど年4回のコンサートを開催し、延べ約2,500名が鑑賞した。	A	B	A	A	昨年度の外部評価において、「参加者が限定されてきている」と指摘したが、21年度はコンサートの内容や回数も充実させ、参加延べ人数も2,500人に達した。評価に値する。
	子ども向けなど、対象を絞った芸術・文化に触れる機会の創出に努めます。	アクロス福岡の文化事業の一環として、町内の園児を対象に子どものためのオペラ「泣いた赤鬼」を鑑賞した。馬場小学校では、舞台芸術感動体験事業の一環として、九州交響楽団（オーケストラ）の演奏会を実施した。	A	A	B	A	昨年度に引き続き着実に実施されている。
	自主活動のサークル、各団体等が協働して行う事業を支援します。	芸術・文化団体に助成金を交付した。また、平成21年度に設立された四季の音楽会実行委員会については、当分の間、町が事務局として支援することになっている。	B	B	B	B	助成金の交付だけでなく、町が活動の実質的支援を行っていることは、評価に値する。
3-3-4 地域文化の継 承と保護	管理・保存を含め文化財等文化遺産の整備を推進します。	「等覚寺の松会」「苺田山笠」保存のための記録作成、「御所山古墳」整備のための測量調査を実施した。また、開発に伴う試掘・確認調査を15件、発掘調査を2件、報告書作成を1件行った。整備に関する町の方針は、調査が完了次第、整備計画等で確定する。	A	A	B	A	
	伝統無形芸能行事については、常設展示場の設置を含めた保存を支援します。（等覚寺の松会、苺田山笠）	歴史資料館内に、等覚寺の松会関係資料を常設展示した。「等覚寺の松会」「苺田山笠」の各保存会に助成金を交付した。「等覚寺の松会」については、継承者不足で松会そのものの保存も危ぶまれているため、記録の作成等を行い、保存を支援している。	A	A	B	A	

<p>歴史案内ボランティアの確保に努めます。</p>	<p>今後、公民館講座等を開催し、受講者をボランティアとして活用したい。</p>	<p>C</p>	<p>C</p>	<p>C</p>	<p>C</p>	<p>昨年度に指摘した課題を今年度もそのまま指摘せざるを得ない。つまり、「ボランティアの人材養成」を積極的に行うことを期待する。</p>
----------------------------	--	----------	----------	----------	----------	--